

アラサー世代の人は最初の就職が非正規雇用だった割合が、アラフォー世代の2.5倍。大阪商業大JGSS研究センターの調査でこんな実態が明らかになった。調査は昨年1～3月に昭和41～55年生まれの男女を対象に実施。回答した2727人を①アラフォー世代(41～45年生まれ)②30代中後半世代(46～50年生まれ)③就職氷河期を経験した30代

「非正規」40代の2.5倍

アラサー悲し 初就職

前半までのアラサー世代(51～55年生まれ)に分けて調べた。最初の就職が非正規雇用だった割合は、アラフォーが8.3%だが、アラサーは21.3%に跳ね上がる。30代中後半は中間の13.7%だった。フリーターを経験したことがあるかとの質問でも、アラフォーは男女とも21.8%だったが、アラサー世代は男性が33.7%、女性は39.9%だった。調査をした岩井紀子・同センター長は「最初の就職が非正規雇用だと、その後転職を繰り返す傾向がある。若い層の不安定な就業状況が結婚や少子化に影響を与えているのではないかと指摘している。」